

## 第 1 回 夕張市の再生方策に関する検討委員会 概要

### 【概要】

○出席者からの主な意見

(当時～現状認識)

- ・夕張市の破綻と現状は、国のエネルギー政策の転換という大きな流れが一因。
- ・炭鉱の閉山に伴う人口の急激な減少が人心に与える影響は大きい。夕張市が財政再生団体になった際には、炭鉱閉山に伴う人口の減少と同種の状況があったのではないかと推察。
- ・職員をはじめとして給与が大幅に削減されたが、生活水準は急には落とせるものではなく、負担感は大きかったものと推測。
- ・業務を行うにあたり受けるストレスの度合いも職の継続・退職を選択する上で重要な視点。破綻当時は職員に対する住民からの批判も強かったものと推察。
- ・メディア等の影響から夕張市に対するネガティブなイメージが広まった。夕張市で生活するということに対して、ネガティブなイメージしか持たれていない。市外の方からも夕張は人の住むところではないと言われたこともある。
- ・破綻当時は自己責任論がフォーカスされる雰囲気があったが、当時も赤字膨脹の経緯や責任を詳細に検証したわけではなく、曖昧な部分を残しながら、速やかな計画策定を優先した。その後の計画変更を通じて、実情に合わせた計画の見直しを図ってきたが、赤字規模が巨大すぎるがゆえの限界があるのではないかと。
- ・夕張市に企業が来て労働者が増えても、住宅が不足しており、夕張市に住むことができない。
- ・夕張市内の中学校から夕張市内の高校への進学率が減少。これは、希望の喪失の象徴的な現れ。
- ・夕張市について良き方策を考えるべき時期に来ていると空知管内の9市も考えている。
- ・夕張市の現状は財政状況の好転と引き換えに地域が疲弊。自治にもう少し柔軟性があったとしても良いのではないかと。

(地方創生・スタートライン)

- ・「最高の負担、最低のサービス」という表現が使われるようなところに人は来ない。
- ・今は地方創生の時代であるが、そのスタートラインにすら立てていない。
- ・自己責任論で言えば、市民や市役所職員の中でも破綻前の時代の人がいなくなってきた中、現在の人達に責任を問うことができるのか疑問。
- ・人口減少は夕張だけでなく全道的な課題。地域に残ってもらう、人口を増やす、そうした取組が肝要。
- ・疲弊地域の再生については、最初に「足し算の支援」、次に「かけ算の支援」という考え方があり。夕張も最近では借金返済一辺倒ではなく、地方創生の取り組みが認められているが、「全国唯一の財政再生団体」という烙印を早く剥がして、人々が地域の未来を前向きに考えられるようにすることが、合わせて大切ではないかと。

(財政計画を見直す方向性)

- ・地方創生の事業を実施するには、財政再生計画の年数の適正性に疑問を感じる。
- ・返すべき借金は返すとして、行政の自由度を確保し、市職員が働き続ける環境を確保できるように、財政再生計画の期間を区切るという議論があってもよい。市行政にもっとフ

リーハンドを持たせるべき。

- ・現在残っている借金を棒引きにすることにはならないが、計画を見直すとした場合には、財源の問題に行き着く。
- ・負債を返し切って、自己決定能力を回復することと、財政再生計画下において大臣協議の簡素化等により、自己決定の幅を広げることは微妙に異なる。

(まとめ)

- ・各委員の意見は「市民の負担」、「サービス」、「職員問題」の3つの問題に集約される。

(市民負担)

- ・職員の厳しい状況の改善は必要。ただ、その際にはやはり「市民税など住民負担の見直しが先」という議論があるのではないか。市民への上乘せ負担はどれだけ歳入増加効果があるのかも疑問。効果よりも、マイナスイメージを拡大する悪影響の方が今や大きい。
- ・他地域と比較すると超過税率等に対して不満も感じられるが、負担感は少ないと思う。その一方で、事業やサービスの廃止は厳しく感じる。
- ・夕張の良いところは、市民の意識が高く、身の回りのことを自分達で何とかしようとする点。

(サービス)

- ・子育て支援センターや一時保育といった基本的なサービスを受けられなかったことがあった。
- ・市が行政サービスを満足に行えないことは理解できるが、市民はその理由を十分に理解していない。理由を説明してもらえれば市民は安心。
- ・夕張に現在住んでいる人を第一に考えられなければ、外から人は来ない。特に子どもは宝。

(行政執行体制)

- ・行政執行体制が崩壊すれば市民生活にも支障が出ることから、行政執行体制の安定化は最重要課題。破綻当時の管理職が残っていない中で、厳しい処遇を続ければ、職員の士気も上がらず、職場に絶望した職員の退職にも歯止めがかけられない。
- ・給与は10%の削減でも行政執行にかなり影響が出るが、夕張市の場合には数字以上の厳しさがある。低い給与・報酬では人材確保が困難。
- ・夕張市の赤字解消の原資のほとんどは人件費から捻出されているが、市職員の人件費をこれ以上上げることは不可能。仕事を継続できるだけの処遇を確保し、人材を採用できる環境を早く整えなければ、執行体制の悪化と必要な人材確保ができないという悪循環に陥る。
- ・一般職員だけでなく特別職や議員も同様に、現在の処遇では人材の確保は難しい。

(次回要望)

- ・破綻当時は議会のチェック機能不全も批判されたが、議員の定数・報酬が大幅に引き下げられた中で、自治の一翼を担う市議会の再生に向けた努力の成果と課題を知りたい。
- ・夕張市の住民の声をもっと聴きたい。
- ・古くから夕張に住んでいる人と他の地域から夕張に移転してきた人、或いは、高齢者、中堅世代、若者では持つ意見も異なると思われる。
- ・一番重要な政策は子育てサービスである。子育てサービスに関する資料がほしい。